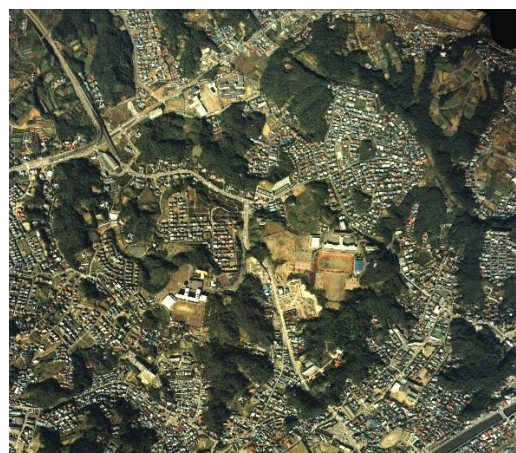


# 玉縄城 まちだより

発行者：玉縄城址まちづくり会議 荒井 章 TEL&FAX 0467-45-7411  
http://www48.tok2.com/home/tamanawajyo



「昔、玉縄に龍がいたってホント?」  
「いや、今も棲んでるんです」  
昭和58年の写真の空撮の上に重ねて山塊をマ塗りにつぶしてと、龍のかたちが浮き彫りになって、見れば見るほど龍が見えてくる、しかも龍の頭に<玉縄城本丸址>が重なるから不思議・・・玉縄はすっぽり龍の中、まさに緑と歴史の「龍脈」なのです。

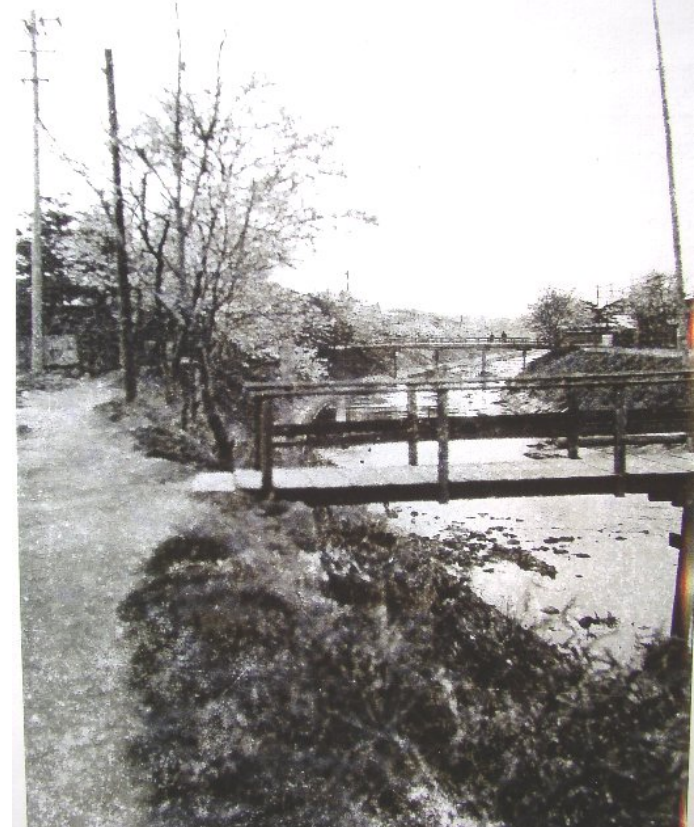
## 玉縄 緑と歴史の「龍脈」を次世代へ 500年祭準備委員会 スタート

玉縄は、玉縄城を中心に広がる「緑と歴史の龍脈」に沿って発展してきました。玉縄というまちの生命線は玉縄の山の緑で形づくられた龍脈です。玉縄の「龍」が瘦せると、玉縄も鎌倉も瘦せてしまいます。鎌倉四大緑地としても世界遺産のバッファゾーンとしても、この龍脈全体を乱開発から守り次世代に引き継いでいかねばならない。私たちがめざす「玉縄城址公園」は、大きな目標への出発点でもあります。

玉縄城址まちづくり会議は1月の第2回総会で「玉縄城址公園」の整備を推進する方針を決めました。2012年の実現をめざし私たちは一斉に走り出しました。

500年祭準備委員会を発足させました。その記念事業として「玉縄城址公園」を推進する方針を決めました。2012年の実現をめざし私たちは一斉に走り出しました。

その年の10月、早雲は玉縄城を築きました。玉縄城は、三浦半島から関東一帯を攻めるだけではなく、鎌倉の地を守るために最適な玉縄の「龍脈」の中心に築かれたのです。そして早雲の志を継ぎ八幡宮を再建し鎌倉を守り抜いたのは「玉縄衆」です。黄八幡の旗を掲げて戦い天下無双といわれた三代北条綱成、玉縄城を無血開城し玉縄と鎌倉を荒廃から救った六代北条氏勝など、玉縄城の北条氏の事蹟と魅力はもつと再評価されるべきです。



### 玉縄思い出写真館

(旧)富岡橋と戸部橋 霜田繁男さんの父君 昭和初期撮影

【ひと言】 玉縄交流センターを柏尾川側に出た辺りに、元の富岡橋が架かっていました。遠くに見える戸部橋も、当時は木の橋でした。柏尾川沿いには、桜の木がずっと植えられており、春には沢山の花見客で賑わったそうです。

- NPOセンター設立100周年 市民活動の日フェスティバル
  - 玉縄城北条展(古写真・古絵図)・活動報告パネル
  - 日時 5月20日(火) 25日(日) 10:00~17:00
  - 鎌倉の生態系リレートーク
  - 日時 5月24日(土) 10:30~12:00
  - 会場 きらら鎌倉生涯学習センター地下ギャラリ
- 第4回歴史セミナー「玉縄北条氏を考える」
  - 日時 6月29日(日) 13:30~16:00
  - 講師 伊藤一美氏
  - 場所 玉縄青少年会館 3階(先着100名)
  - 問合せ・申込み(電話) 0467-457411 荒井

「玉縄城」を心の故郷として子供たちに残していくためには、2012年(平成24年)の「玉縄城500年祭」を盛り上げることが必要です。さらに「七曲坂」を中心にした「玉縄城址公園」の整備も進めて行きます。玉縄城址まちづくり会議では平成20年度に「会員1,000名」運動を展開することにしました。会員の皆様のお力をお借りして様々な活動を展開して行きます。「玉縄城址周辺ウォーク」「新入会員セミナー」などの企画が目白押しです。お申込はお近くの会員または郵便振替用紙を利用して直接お願いします。気軽に声をかけてください。あなたの積極的な参加をみんなでお待ちしています。

- 「玉縄城址まちづくり会議」の活動
- 2007年(平成19年)
  - 11/ 3 「アダプト・プログラム」による七曲坂清掃。以後毎月開催 玉縄城まちだより創刊号発行
  - 11/11 玉縄まつり初参加「お休み処黄八幡」飲み物、苗等を販売
  - 11/14 NPO鎌倉から支援金を受領
  - 11/22 鎌倉市経営企画部長と協議
  - 11/23~25 玉縄学習センターフェスティバル初参加「玉縄今昔写真、武者絵、古絵図展」
  - 11/24 第2回探索会「秋の玉縄城址周辺(岡本・玉縄)を歩く」
  - 12/ 1 七曲坂縄張り測量、芋煮会
  - 12/ 6 七曲坂アダプト看板設置
  - 12/ 8 第10回推進委員会(毎月)
  - 12/22 総会準備委員会
  - 12/28 市経営企画部・景観部・みどり課との500年祭記念城址公園化の情報交換
- 2008年(平成20年)
  - 1/11 市経営企画部と公園化協議
  - 1/20 玉縄地域新春のつどい参加
  - 1/26 第4回市民参加セミナー「鎌倉の自然と玉縄」第2回総会
  - 1/31 市教育長とみどりの学校協議
  - 2/ 2 七曲坂2号地草刈り奉仕
  - 2/ 6 500年祭準備委員会発足
  - 2/19 市公園海浜課と太鼓やぐら周辺探索会
  - 2/24 七曲坂2号地草刈り奉仕
  - 2/27 教育長と城址遺構調査協議
  - 3/ 1, 8 七曲坂2号地草刈り奉仕 七曲尾根道を探索
  - 3/ 8 太鼓やぐら周辺縄張り測量
  - 3/28 市長、教育長懇談。500年祭と城址公園の実施計画に言及。城址遺構調査要請。鎌倉子ども風土記玉縄編の改訂を了承。協働が本格化
  - 3/29 第3回探索会「春の玉縄城址周辺(諏訪壇他)を歩こう」81名参加、入会者多数

年会費1,200円払込のための「郵便振替口座番号」002507114824 玉縄城址まちづくり会議 ※住所・氏名・電話番号をお忘れなく!



一般的に開基様というのは、お寺にとつては開山様に次いで篤く敬われますが、龍寶寺でも古来より、北条綱成(龍寶寺の前身を創建)をはじめ歴代の玉縄城主を手厚く供養してまいりました。

(編集注※五代や六代との説もあり)

龍寶寺(龍宝寺、りゅうほうじ)の開山(初代住職のこと)は、泰繁宗榮大和尚です。開基(寺を創建した方のこと)は、四代玉縄城主北条氏勝※で室町時代後期(1575年)に玉縄城主の菩提寺として現在地に建立したと伝えられています。

現在地に移される前は、龍寶寺の前身として香花院があったとされ、その間も合わせますと、龍寶寺はおよそ五百年の長い歴史を持つていることになりす。

## “玉縄城と龍寶寺”

梅田 良光



昭和26年(1951年)に焼失する前の本堂の絵図

したがいますして、この度の有志の方々による玉縄城址の復興活動は、歴代城主をはじめとする玉縄北条氏一族の菩提を弔う意味でも、非常に意義深いことと思われてなりません。

私たちがご縁をいただいて暮らしているこの地は、かつて諸国に勇名を馳せた玉縄北条氏の居城(玉縄城)のお膝元であったということ。そのことが、身近に感じられて誇りに思えるようなまちづくりは、私たちに郷土愛を芽生えさせ、地域と自分とのつながりを思い出させるきっかけとなるでしょう。特に、地域の子どものための健やかなアイデンティティー(自己基盤)確立にもつながるのではないかと、期待しています。

(曹洞宗 陽谷山 龍寶寺住職)

汗かき・知恵出し・声援で「玉縄城址まちづくり会議」に参加しませんか。

## 歴史シリーズ 2 玉縄城主 北条為昌



二代玉縄城主北条為昌(ほうじょうためまさ)は、二代小田原城主北条氏綱の子で永正十七年(1520年)生まれ(仮名(けみょう)を彦九郎と称し、初代城主氏時の死後、天文元年(1532年)にわずか十二歳で玉縄城主となりました。為昌は玉縄に加えて三浦郡、武蔵小机領を管轄し、相模川東部から多摩川までにわたる広い地域を支配しました。この当時、北条領は江戸地域が最前線であったため、玉縄城は北条領支配において重要な役割を果たしていました。

為昌は幼い城主であったために、氏綱の娘婿の福島綱成(くしまつな)が後見役となりました。為昌には北条一族の大部分が襲名している「氏(うじ)の通字がありませんが、それは為昌が元服して玉縄城主に就く際、早雲のいとこにあたる大道寺盛昌(だいどうじもりまさ)のちの鎌倉代官)が烏帽子親になり、自分の名前

の一字「昌」の字を与えたからといわれています。

為昌が六歳であった大永六年(1526年)に、安房の里見氏が鎌倉に侵入し北条氏の軍と鶴岡八幡宮の付近において戦を行い、八幡宮一帯が兵火により焼けたと伝えられています。(里見記)

鶴岡八幡宮の再建は氏綱により天文二年(1533年)に始まりましたが、『快元僧都記』(かいげんそうずき)に「為昌彦九郎殿、築地十二間請け取る」の記録があり、為昌が北条一門として工事に参加し、奈良、京都、伊豆、鎌倉番匠等と一緒に造営にたずさわったことがわかります。

為昌は、天文四年(1535年)甲斐山中合戦、同五年入間川合戦などに、父氏綱、兄氏康(のちの三代小田原城主)、叔父宗哲と並んで一軍の将を務めました。同六年(1537年)七月には扇谷上杉氏の武蔵河越城(川越市)を攻略して武蔵中央部に進出し、為昌が城代となりました。

為昌は、軍事、外交、行政のあらゆる側面において、氏綱、氏康父子を支える存在になっていきましたが、天文十一年(1542年)五月三日に弱冠二十三歳で死去しました。為昌は実子に恵まれなかったため、北条綱成(福島氏。くしま氏)が養子となって三代玉縄城主を継承しました。

## 「玉縄城址公園」実現に向けて —その一部としての七曲坂 周辺の整備を進めよう!

整備活動を始める以前の七曲坂は、下からの入口がどこかハッキリせず、昼なお薄暗く、カミヤツデ等が鬱蒼と群生して、一人で通るのにちよつと勇気のいる淋しい場所でした。

玉縄城の遺構として歴史的に由緒のあるこの七曲坂を、何とか皆が親しめる場所にしたとの願いから、地権者のご諒解を得て少しずつ整備を進めてきました。大勢の汗水流しての労力結集で、荒れ放題だった低雑木竹類が刈り取られ、一部花壇等もでき、明るい親しみの持てる場所に変貌



2007年3月

草刈り奉仕ですっきりきれいになった七曲坂



2008年3月



縄張り(測量)の様子



七曲尾根にある玉縄城の遺構(切岸)

## 玉縄城の復元を 目に見える形で

築城500年を機に玉縄城の復元はできないものか— 私たちは、古絵図の制作や、大手門・土塀・太鼓やぐらなどの復元スケッチを通じて、玉縄城を誰もが目にする事ができる形で復元しようとしています。また、専門の技術を持つ大学と協働しての、CG映像による玉縄城の詳細な復元も計画しています。その第一歩として、七曲坂周辺の縄張り(測量)を始めています。

また、玉縄城主として最も勇名を轟かせた三代北条綱成(つなしげ)の旗である「黄八幡」を、現代の玉縄城址にもはためかせようと、私たちの活動のシンボルとして「黄八幡旗」の制作も計画しています。

## みんなで知る 玉縄の歴史・素晴らしさ

玉縄には、諏訪壇・太鼓やぐら・七曲尾根の切岸など、玉縄城の遺構がまだまだ残されています。これらを地域の共有財産として受け継いで行くためには、大人も子供もこの土地の歴史を知り、故郷(ふるさと)として愛していかなければなりません。

私たちは、玉縄と玉縄城の素晴らしさを地域住民のみんなで再発見しようとして、「市民参加の歴史セミナー」を連続開催しています。また、「市民参加の玉縄城址周辺探索会」も実施しています。親子で読む「入門、玉縄の歴史」の制作も検討しています。

玉縄城500年に向けて、歴史啓発部会主催のイベントに、ぜひご参加ください。